

本に親しみ、自ら学びに生かす児童の育成

いちき串木野市立川上小学校

1 研究のねらい

急速に情報化やグローバル化が進むこれからの社会を生きていくためには、子どもたちには、自ら調べて情報を集め、論理的に考え判断し、協働しながら答えを導き出す力や、生涯学び続けようとする意欲を身に付けることが求められる。

そのような力を育成するには、デジタルの情報だけでなく、多くの人の手によって編集され、正確で多種多様な情報を取得できる図書を活用した学習が必要である。また、学習指導要領でも、学校図書館の計画的な利活用とその機能を生かした授業改善等が求められている。

本校児童は、主体的に学習に取り組む素直で明るい子どもたちである。しかし、目の前の事象や出来事に対して「なぜだろう」などと疑問を抱き、自ら意欲的に調べようとする姿は不十分である。

そこで、課題を追究する過程や解決した後に生まれた疑問を更に意欲的に調べ続ける子どもを育成したいと考えた。

2 研究の概要

本校の図書室環境は充実しており、読書好きの子どもたちは多い。研究主題を「本に親しみ、自ら学びに生かす児童の育成」として、恵まれた図書環境を更に生かし、国語科に限定せずに各教科等での図書の活用を図る研究を行うこととした。



3 研究の内容

研究内容1	子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築
児童が「なぜ？どうして？」という疑問をもち、自ら調べ、「もっと知りたい」と思うためには、意図的な声かけや仕掛けが必要だと考えた。そこで、授業の中で、どのような視点でどのような図書を活用すればよいのかを考え、授業と図書室をつなぐ「活用リスト」を作成した。	
研究内容2	子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備、家庭・地域との連携
児童の「読みたい」という思いをふくらませるためには、魅力的な本の紹介や本を読む機会の設定など、図書環境の充実が必要である。また、家庭や地域との連携を図ることも、多様な読書活動につながると考えた。	
研究内容3	子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫
児童が「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりするためには、図書を活用した交流活動の工夫が必要である。本を通して他の人とつながる楽しさや、自分の感想や考えに共感してもらい嬉しさを感じられる機会や、その方法の充実について取り組んだ。	

4 研究の実際

(1) 研究内容1 … 子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築

ア 図書活用の在り方の分類

各教科等における、図書活用の在り方を「興味・関心喚起型」「理解型」「発展型」「表現型」の四つの視点で分類し整理した。

イ 活用リストの作成

更に授業実践につなげやすくするために「活用リスト」を作成した。全教科等・全単元を対象に、授業で図書の活用が想定できる内容や実際に活用した内容についてまとめた。

ウ 公立図書館との連携（活用モデルとして）

図書を活用したくても図書室に蔵書がない場合に、公立図書館に渡してある「活用リスト」を基に配本してもらうなどの支援を得た。

3年	算数	9月	単元名『長さ』	3 / 8
ねらい	道のりと距離の意味や km と m の関係と長さの計算の仕方を知る。			
活用場面	終末			
活用の仕方	1 1000m が 1 km だということと、長さの計算の仕方を知る。 2 「これまでにあった長さの単位で、「m」「c」「k」って何なのだろうか？」			
参考図書	単位と比 (4171) 目でみる単位の図鑑 (6674) 目で見てわかる身近な単位 (7984) ことば絵事典②単位・教え方・色・形のことば (4880)			
活用分類	興味・関心喚起型		理解型	○
			発展型	○
			表現型	

【活用リスト～抜粋～】

(2) 研究内容2 … 子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備、家庭・地域との連携

ア 魅力的な本の紹介の工夫

子どもが新しい分野の本に興味をもち、魅力的な本と出合えるように、本のよさを紹介する視点を設定し、図書環境の整備に努めている。

イ 本を読む機会の設定

可能な限り本に親しめる時間を確保できるように、「読書タイム」「家読（うちどく）の日」などの本を読む機会を多数設定している。

ウ 保護者や地域を巻きこんでの連携の工夫

家庭での読書を啓発し、親子で読書に親しんでもらう目的で、毎学期1週間、「親子読書週間」を設定している。

また、毎週木曜日の放課後に保護者や地域住民、地域企業の方と連携し、読み聞かせやミニビブリオバトルを行っている。

エ 図書室環境の充実

よりゆったりと過ごせる環境と学習スペースの確保を考え、広い【保護者による読み聞かせ】教室へ図書室を移動をした。また、不足していた書架10台を職員で作成して設置した。

(3) 研究内容3 … 子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫

ア 本の楽しさを感じさせるための工夫

音読戦隊川上ヨメルンジャーの計画に異学年のペア活動を盛り込んだ。学期毎の「子ども読書」「親子読書」についても継続して取り組んでいる。また、日常的に児童がお気に入りの本や感想を紹介したり、調べて分かったことを発表したりする機会を確保した。

イ ビブリオバトル大会

平成25年度からビブリオバトルに取り組んでいる。川上フェスタに保護者や地域住民を招いて、全児童が発表している。児童は相手意識をもって工夫して本を紹介している。



【梅の实りに合わせて】



【保護者による読み聞かせ】

5 研究のまとめ

(○：成果 ●：課題)

- 教師の問い返しや関連図書の提示により、自ら本で調べる姿が多く見られるようになった。
- 「活用リスト」の作成により、授業での図書活用が容易に効果的にできるようになった。また、公立図書館との連携により充実を図ることができた。
- これまでの充実した図書環境をベースに紹介コーナーや読み聞かせ・読書機会の拡充等の工夫により、児童の読書意欲は更に高まった。
- 保護者や地域住民、企業等多様な人との関わりで、児童の読書経験や読書の幅が広がった。
- ビブリオバトルにより、児童の表現力を高め、本を通して人と繋がることのできた。
- 児童が自分で必要な本を探し出し活用するための手立ての工夫
- 授業実践を通じた「活用リスト」の改善と公立図書館との更なる連携

6 今後の取組

「活用リスト」の改訂及び、「図書を活用する力」を高めていく研究を行う予定である。